

チャーリー通信

令和2年7月15日(水) 申孝保育園

令和2年7月14日(火)夕刻、亀のチャーリーが天に召されました。



平成19年の夏のある日、真悟園長先生と男の園長先生が申孝保育園に5匹の亀を連れてきてくれました。その中で、中くらいの大きさだった亀がチャーリーでした。チャーリーたちが保育園にきた当時のこぐまぐみの子どもたち(今、高校生になりました)が考えてくれたお名前でした。当時の男の子たちは機関車トーマスが大好きで、そのトーマスの仲間たちの名前から考えて名付けてくれ玄関先の亀たちは、「ダイゴ・トービー・チャーリー」、こぐまのお部屋に2匹の亀を、「みどりちゃん・カメちゃん」でした。それから、子どもたちは毎日朝来ると、玄関先のチャーリーたちに「おはよう」と朝のあいさつし、お家へ帰る時にも、「バイバイ」と手を振って帰路についていました。月日が経った今でも、玄関先ではチャーリーたちは、子どもたちみんなの登園を持ち、お家へ帰る様子を見守っていました。

今、玄関先にいる3匹の亀(大亀ごくう・中亀たいこう・小亀チャーリー)の中で一番の長老が、チャーリーでした。そんなチャーリーは、昨日そっと息をひきとり初代大亀のダイゴ、中亀のトービーのもとへと召されました。

昨日、いつものようにお迎えに来られたお母さんと一緒に、チャーリーたちにバイバイと帰りの挨拶にむかった子どもたちが、動かなくなったチャーリーに気づいてくれました。いつもは元気に動いているのに、今朝は動いていたのに動かない「どうしたの?」とみんなに心配されたチャーリーは、大好きなみんなに触れられ、声をかけられてもそっと目を閉じているのでした。

そして、今日、こぐまさんはじめ子どもたちは、玄関先のチャーリーに「ありがとう」と感謝し手を合わせました。今日子どもたちは、命について、死について向き合う大切な時間を過ごしました。そして、子どもたちとチャーリーを柿の木のたもとに葬りました。

チャーリーはお空に旅立ちましたが、チャーリーはいつまでも子どもたち、私たちみんなを見守っています。ありがとう、チャーリー。

